

麦 作 情 報 第 1 号

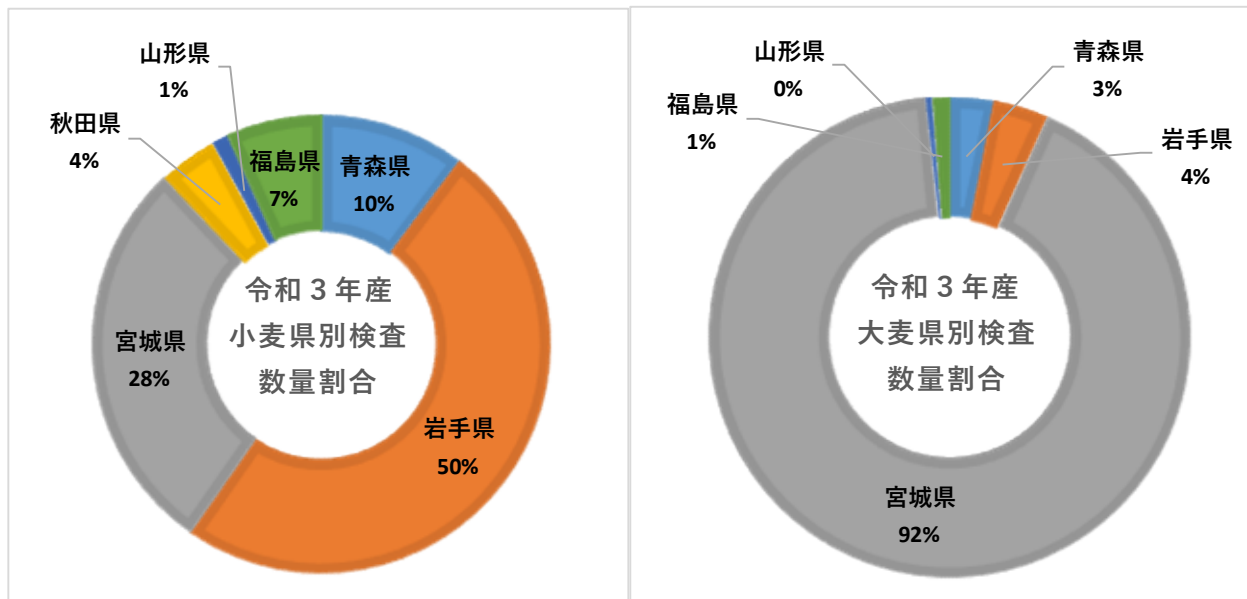
令和4年10月5日：JA全農みやぎ

～「適期播種」と「排水対策」で高品質麦の安定生産を！！～

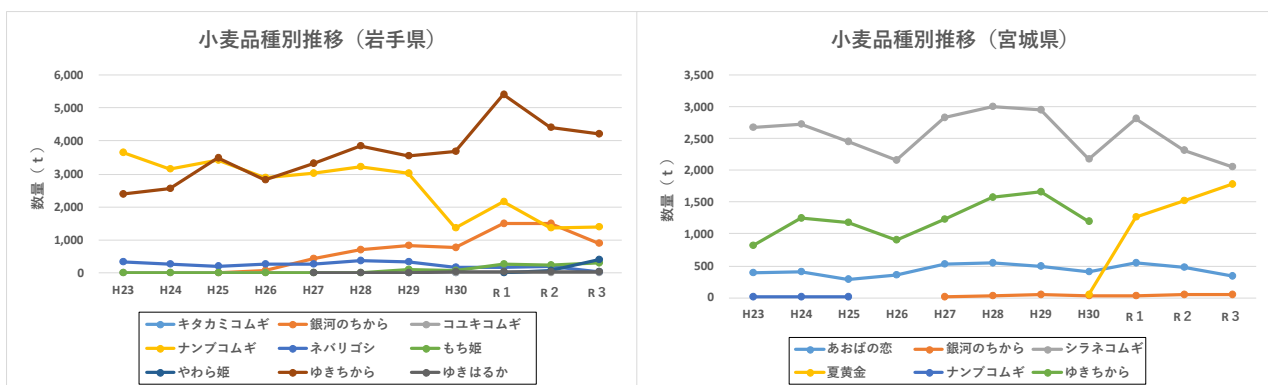
1 宮城県を中心とした麦の生産概況

(1) 東北地方と主産県の収量・品質【農林水産省 麦類の農産物検査結果より作図】

- ・小麦は、岩手県の50%に次いで多い28%を占めている。
- ・大麦は宮城県が東北一で、東北地方の92%を占める主産県である。

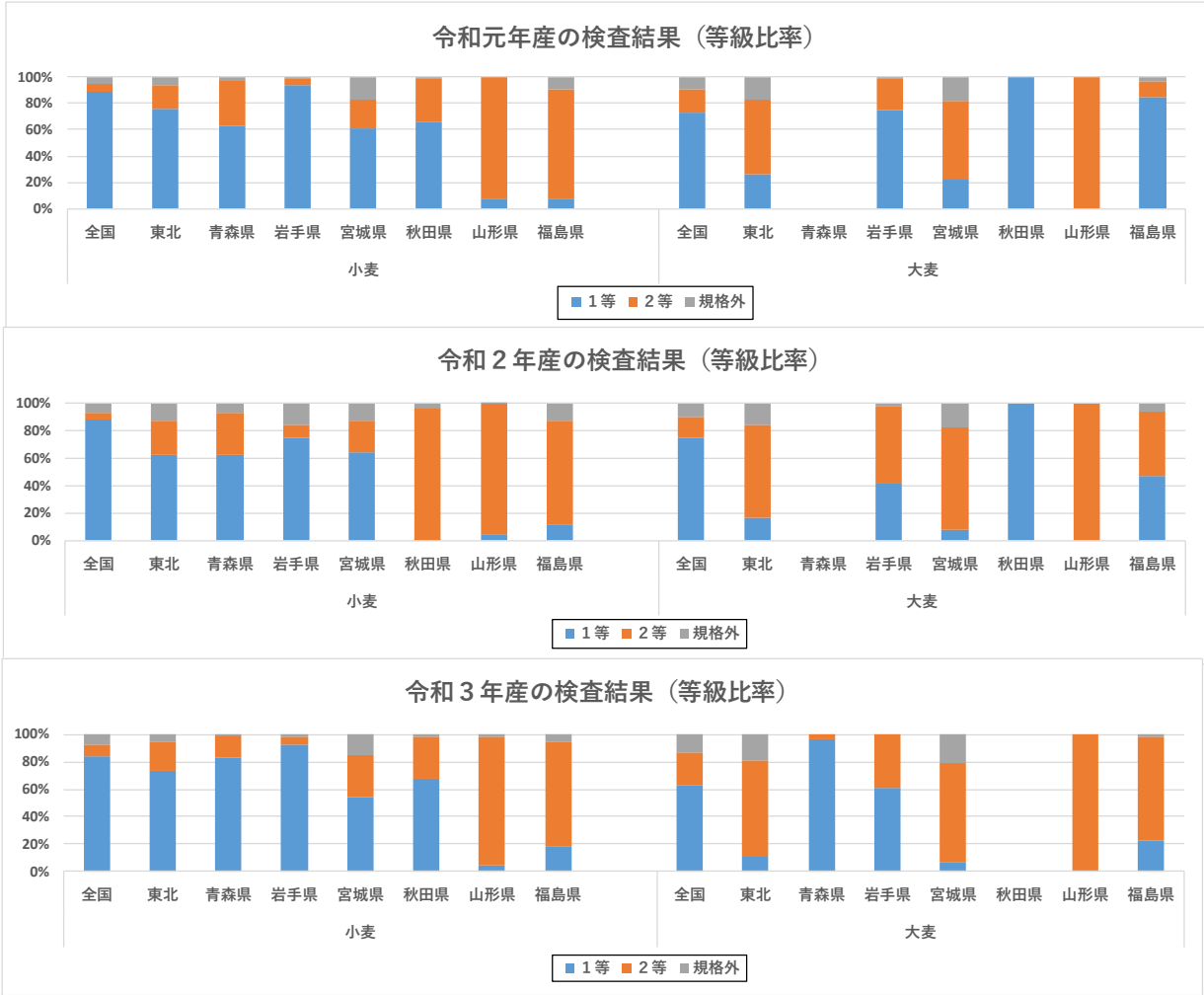


- ・小麦主要産地の岩手県では、近年は、パン・中華めん用に適した「ゆきちから」に加えて「銀河のちから」が増加傾向にある。
- ・宮城県では、パン・中華めん用に適した品種として、令和元年産から「ゆきちから」に代わり「夏黄金（なつこがね）」の作付が開始され、面積が増加している。



- ・東北地方における検査等級比率は、県ごとにバラツキがみられる。
- ・1等比率は小麦では岩手県が比較的安定して高く、宮城県の1等比率は50～60%前後である。六

条大麦では秋田県及び岩手県が高く、宮城県の1等比率は5～20%程度にとどまっている。



（2）宮城県の令和4年産の生育と品質概況【古川農業試験場 麦類作況試験より】

1）播種～12月

- ・播種期～出芽期前後の気温は概ね平年並みで、出芽日数は概ね平年並みであった。
- ・出芽後（11月）の気温は平年並み～やや高めに推移したため、年内の生育は概ね越冬前の目標量を確保した。

2）2月（3月初め）の生育

- ・12月後半から2月末まで積雪が継続したため、3月初めに調査した結果、適期に播種できたほ場では平年並みであったが、播種の遅れたほ場では目標の70%程度であった。
- ・大麦の幼穂は1.0～1.2mmで2月末～3月初頭に幼穂形成始期に達したと推察される。小麦の幼穂は0.3mmで、幼穂形成始期には達していない。

3）3月の生育

- ・積雪の影響で、大麦・小麦ともに草丈と葉数が平年値を下回り、生育ステージはやや遅れているが、茎数は平年並みで生育量は確保できている。
- ・3月20日の調査では小麦はまだ幼穂形成始期に達していない。幼穂形成始期は、3月末頃と見込まれる。

4) 4月の生育

- ・4月11日の調査では、大麦・小麦ともに草丈と葉数は平年値を下回り、茎数は平年並み～やや少なかった。
- ・3月～4月は高温傾向で推移したため、減数分裂期は大麦が4月中～下旬、小麦は4月下旬頃で、概ね平年並みとなった。

5) 5月の生育

- ・出穂期は、大麦の「シュンライ」が4月27日で平年より2日、「ミノリムギ」は5月1日で平年より3日、小麦の「シラネコムギ」は5月7日で平年より3日遅かった。
- ・出穂期以降の気温はやや高く、成熟期は平年並み～やや早かった。

6) 作付面積と収量（下表参照）

- ・作付面積は小麦が946ha、大麦が1,324haで、収量は小麦が334kg/10a、大麦が275kg/10aとなった。

7) 品質

- ・小麦の1等比率は、86.7%で昨年産を上回った。
- ・銘柄別では、「シラネコムギ」が1等比率84%、「夏黄金」が93%と概ね良好であるが、「あおばの恋」は64%に留まった。
- ・大麦の1等比率は6%で、前年並みの低位に留まった。

令和4年産 麦類の面積・収量・等級比率等（全農宮城県本部とりまとめ）

区分	品 種 名	作付面積 *1 (ha)	集荷数量 *2 (t)	収量 *3 (kg/10a)	等級比率(%)	
					1等	2等
小麦	シラネコムギ	437	1,372	314	84.2	15.8
	あおばの恋	62	274	442	64.2	35.8
	夏黄金	431	1,471	341	93.0	7.0
	銀河のちから	16	42	263	95.3	4.7
	その他	-	-	-	-	-
	小麦 計	946	3,160	334	86.7	13.3
大麦	シュンライ	439	1,301	296	8.8	91.2
	ミノリムギ	259	639	247	9.5	90.5
	ホワイトファイバー	625	1,702	272	2.9	97.1
	その他	1	-	-	-	-
	大麦 計	1,324	3,642	275	6.2	93.8

*1 実播種面積

*2 令和4年9月における最終集荷実績

*3 集荷数量/作付面積

(3) 昨年の病害虫発生状況【宮城県病害虫防除所HPより】

○赤かび病

- ・6月中旬の巡回調査では、小麦の発病穂率は平年並みであったが、発生地点率は平年を上回った。
- ・定点調査（古川農業試験場）の結果、発病穂率は大麦・小麦ともに平年を上回った。

2 東北地方の1か月予報【10月1日～30日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・期間の前半は気温の変動が大きく、2週目は気温がかなり低くなる可能性がある。
- ・気温は、高い若しくは平年並みの確率 40%，低い確率 20%。
- ・降水量は、多い確率 40%，平年並み若しくは少ない確率 30%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率 30%，少ない確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 10/01～10/30	20 40 40
		1週目 10/01～10/07	20 30 50
		2週目 10/08～10/14	40 40 20
		3～4週目 10/15～10/28	20 30 50
降水量	東北地方	向こう1か月 10/01～10/30	30 30 40
日照時間	東北地方	向こう1か月 10/01～10/30	40 30 30

■ 低い(少ない)
 ■ 平年並
 ■ 高い(多い)

3 令和5年産麦類の生産に向けて

(1) 適期播種

- ◆麦は、冬に向けて生育する作物なので、生育量の確保が最も重要である（北ほど早い播種）。
- ・播種が遅れると分げつの発生が遅れ、根張りも悪く寒害にも弱くなる。
- ・生育の遅れは、遅発分げつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生して品質が低下する。
- ・播種量は、大麦で8～10kg/10a，小麦で9～11kg/10aを基本とする。
- ・赤かび病等の防除のため種子更新，選種，種子消毒を確実に実施する。
- ◆小麦「あおばの恋」は早生品種で，シラネコムギ等比べて生育相が速いため，早播きすると凍霜害（幼穂の凍死）が発生する恐れがある。そのため，他の品種より10日程度遅くする。
また，あおばの恋の適正播種量は6～9kg/10aとする。

地域区分	小麦 あおばの恋	大麦	シュンライ
			ミノリムギ
			ホワイトファイバー
		小麦	シラネコムギ
			夏黄金
北部平坦	10月15～30日	10月5～20日	
南部平坦	10月25～11月10日	10月15～30日	
三陸沿岸	10月15～30日	10月5～20日	

(2) 排水対策

- ◆宮城県が東北地方で収量が高いのは、排水対策が徹底されているためである。
- ・排水不良田では、出芽後や冬季の寒害等の影響により茎数が確保できない。
- ・ほ場内にも明渠（30～40cm 深）を設置し、本暗渠や弾丸暗渠を組み合わせる。